

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192600134		
法人名	社会福祉法人 浩仁会		
事業所名	グループホームIB(アイビー) けやき1番地		
所在地	岐阜県揖斐郡揖斐川町長良657番地1		
自己評価作成日	令和4年9月26日	評価結果市町村受理日	令和5年2月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhou_detail_022_kani=true&JgvsvoCd=2192600134-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 岐阜後見センター
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7
訪問調査日	令和4年10月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

揖斐川の支流、桂川沿いに建つ当施設は、山を近くに望み、田畑も広がり、春は桂川沿いの花も、夏には源氏虫が飛び交い、四季折々の景色が楽しめます。リビングの大きな窓が明るく空間を作り出し、自由に出入りできるルーフトデッキもあり、自然を身近に感じながら過ごすことができます。ルーフトデッキには菜園や花壇があり、入居者様と共に花を育てたり野菜作りをし、収穫した野菜を調理し、植物や食物から四季を感じることもできます。また、明るく風通しの良いリビングで、ゆったりティータイムを楽しんだり、入居者様同士ふれあったり、お一人お一人の想いを大切にし、安心して自由な生活を支援させていただきます。職員は、目標設定や自己評価を行い、スキルアップを目指し、外部の方による研修や施設内外の研修会に参加し、入居者様がより安心し、満足していただけるよう支援させていただきます。また、クリニックが施設内に併設されている為、体調管理ができ、急な状態変化にも対応することができます。終末期ケアにを望まれる場合も入居者様、ご家族様の意向に沿った看取りケアを行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは豊かな自然に囲まれた田園地帯に立地し、建物2階に位置するホームからは見晴らしが良く、遠く山々を眺望でき、四季の彩を楽しめる。リビングに面したルーフトデッキには花壇や畑があり、陽気の良い時には、日光浴をしたり、景色を眺める等して楽しんでいる。また、ルーフトデッキで、流しそうめんなどの行事を行ったり、おやつを作ってコーヒータイトムに利用する等して、気分転換にも活用している。同一建物内に地域密着型特別養護老人ホームや小規模多機能事業所があり、施設間で職員が共同できるメリットがある。例えば、各委員会は各事業所の職員が共同で運営されているため、特に身体拘束廃止については、身体拘束をしない意識の醸成や現場での事業所間の垣根を超えた協力体制ができており、拘束しないケアが提供できている。医療法人を母体としたグループ法人の施設であり、建物内にクリニックを設置し、かかりつけ医と綿密な連携も図っている。また、利用者の体調管理や緊急時体制もできており、利用者・家族の安心につながっている。さらに、ホームで看取りを望まれる方も多く、コロナ禍であっても、居室内での面会や宿泊にも応じ、利用者や家族の気持ちを汲み取る支援を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を基に毎年、各部署・ユニットが目標を決め、目標に対する行動計画をたて毎月評価を行っている。職員は法人理念が書かれた小冊子を持ち意識付けをし、定期的に面談にて振り返りを行っている。	法人理念を基に、今年は「何事にもチャレンジ」というユニット目標を掲げ、ケア実践にあたっている。例えば、新しい利用者が草むしりをしたいという要望にしっかりと向き合い、職員も一緒に行う等、一つ一つチャレンジを積み重ねている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染拡大防止の為、現在地域ボランティアの受け入れは中止している。コロナ減少傾向であれば、感染予防に留意しながら地域の公園などに出かけている。	現在、コロナ禍の影響でボランティアの受け入れを制限せざるを得ない状況にあるが、いつでも再開できるよう電話連絡を行い、つながりを継続している。地域の感染状況を見ながら、行政が主催する介護予防教室と共同し、スマイルカフェを少しずつ再開し始めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	揖斐川町の介護相談事業の委託を受け介護予防教室と認知症カフェを開催している。コロナ対応にて認知症カフェは中止している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	併設の地域密着型施設と合同で2ヶ月に一回開催し施設内の行事や事故報告、委員会活動を紹介している。現在コロナ対応でご家族様は参加中止としているが町の職員に参加して頂いて報告している。	行事の写真等も活用し、運営状況等の報告を行っている。地域行事についての情報共有等、出席者から多くの意見をもらっている。特に、事故予防や防災について意見が交わされ、危機意識の共有ができています。	コロナ感染予防のため、利用者・家族に会議の案内を控えているが、会議後の議事録を送付する等の情報提供を行うとともに、アンケート用紙を添付する等して、意見をもらえるよう工夫に向けた取り組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に区長、町の高齢福祉課の職員の方に参加して頂きサービス状況の報告を行っている。地域ケア会議に出席し情報交換を行っている。	運営推進会議には必ず出席しており、様々な情報提供を得たり、事故事例を共有する等の連携を図っている。また、地域包括支援センターが主催する定期的な地域ケア会議にホームからケアマネージャーが出席する等、連携関係ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会にて困難事例や不適切ケアについて多職種で検討し身体拘束しないケアに取り組んでいる。やむを得ず行う必要があると考えられる場合でも安易に判断せず身体拘束廃止(適正化)委員に於いて十分に検討を行い具体的な対応を検討している。	身体拘束廃止委員会では併設を含めた3つの事業所から選ばれた職員に加え、ケアマネージャーや看護師、相談員、施設長も出席して、話し合い、協力し合って拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内での研修により高齢者虐待防止関連法の理解を深めている。対応困難の方のケア方法など不安だと思っている事はないか委員会やユニット会議で話し合いをし、職員のストレスケアにも注意をしながら防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修を行い、全職員が学ぶ機会を持っている。成年後見人制度を利用している利用者様の司法書士との関わりを通じて身近に学ぶ事も出来て支援につなげている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項の説明を不足にならないように十分に説明し、ご本人様やご家族様からの質問に分かりやすい言葉で心掛けお答えし理解、納得していただき、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	サービス担当者会議やご家族様来訪時に意見、要望を伺い、サービスに反映させている。頂いた意見は貴重なご意見メモを作成し運営に反映できるよう努め、ユニットでも議題としている。ご意見箱も設置している。	家族には面会や衣類交換の来訪時に、状況報告を行うとともに、意見を聞くよう努めている。意見は、「貴重なご意見メモ」に記載し、運営に活かしている。コロナ禍に入ってから、電話やラインを活用する機会が増えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員から聞き取りを行った意見を委員会で出し合い改善に向け、取り組みを行っている。日常的に困っている事があれば都度、面談を行っている。また、人事考課により意見・要望を記入してもらい思いを汲み取り幹部会議で検討し、事業所運営に活かしている。	各職員は各種委員会に所属し、そこで意見を出し合い、汲み上げ、運営に反映する仕組みができています。また、年に2回の面談に加え、必要時にはその都度、面談を行い、意見を収集するようにしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年、自己目標管理シートに自分自身を振り返り、自己評価をしている。これを基に年3回面談を行い、目標達成度を把握するとともに感謝しているところを伝えてる。要望の聞き取りも行い、働きやすい環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修を年間計画を立て実施し、全職員が参加できるように行い参加できない職員にはフィードバックし学ぶ機会を設けている。新人職員には内部研修を行いアドバイスしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人・関連法人にあるグループホームと意見交換や検討会にて連携を取りながらサービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の思いや要望を日々の生活の中から引き出し必要なサービスを検討している。またサービス担当者会議で家族様より情報収集をし安心して生活できるような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前調査や契約時にご家族様に聞き取りを行いながら、分かりやすく説明を行い困っていることや要望をの把握に努めご家族様などに信頼していただけるように関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前調査などから本人様やご家族様に聞き取りなどを行い状況・状態を把握することでおかかりつけ医への通院・理学療法士によるリハビリなど、より良いサービス利用ができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物を干す、茶碗やお盆を拭く、掃除をするなど一人一人の出来る力を大切に、ホームでの生活の役割を任せていただいていることで、共に暮らす者同士の馴染みのある関係性を築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ対応により面会制限があり本人とご家族様とゆっくりと会う事が出来ない為、日々のご様子など状態報告を密に行っている。行事や日々の暮らしのご様子など、ラインで写真やメッセージを送ったりしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日々様子やご本人の想いを洗濯物の受け渡しの際に報告したり、タブレットを利用して写真やメッセージを送ることで家族との関係性を保つと共に、ご家族様もご本人に関わる機会をもってもらっている。	入居時に利用者の個性、嗜好や生活歴等を情報収集することで、利用者の大切にしてきた人や場所を理解するようにしている。「あなたのことを知りたいシート」としてまとめ、カルテに挟み、共有している。また、馴染みの店に出かけられなくても出前してもらう等、関係継続に向けた工夫をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ユニット間は自由に行き来でき、併設の事業所の利用者様もおみえになり地域も話しをされたりと馴染みの関係ができています。施設内にある『ラウンジ』では新聞をゆっくり読む場があり関わり合えるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されても必要に応じて情報提供させていただいたり、ご家族様の相談に対応している。また併設の事業所に移られたご家族様にお会いした時も声かけをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事前調査時、利用者様やご家族様からの希望や意向、今までの暮らし方について伺い情報を共有した上で日常生活での会話や表情から想いを汲み取りその都度ご家族様と共に検討を行っている。	利用者オリエンテッドの観点から、日常的なコミュニケーションを通じて意向等を汲み取る様になっている。特に、入浴等の職員との1対1になる場面を大事な機会と捉えている。また、言葉で表せない利用者については表情やしぐさ、家族からの情報を参考に思いを汲み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	法人独自の情報シートを活用しご本人様やご家族様から生活歴など聞いたり日々コミュニケーションを取りながら情報の把握、共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の気づきを毎朝の申し送りや申し送りノート、ケア記録(iPad)あなたのこと知りたいシートなどに記入し情報共有することで全職員が現状の把握をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月モニタリングを実施している。又、ユニット会議に於いてもケアプランが現状に即しているか検討をするので職員から多くの意見やアイデアが提案される。又、本人、ご家族様や管理栄養士など参加したサービス担当者会議を行うことにより、本人にとってより良い介護計画を作成している。	3か月に1度、計画について定期的に見直すこととしている。モニタリングは担当職員が主に行い、家族からの情報収集はケアマネージャーが主に行っている。関係職種が集まるサービス担当者会議で意見を持ち寄り、ケアプランの更新を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿い日々の生活の様子や気づきを記録することやユニット会議で情報共有しながら、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々に応じてご家族様と話し合い柔軟に対応できるようサービス内容を変更している。併設のクリニックと連携を取り、安心していただけるようなサービスの提供や併設の事業所の利用者との交流、また自宅に帰るなどの支援も行っているが現在コロナ対応で帰宅などは控えていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ対応にて外出や地域との交流が出来ないが、地域の商店よりパンやお菓子等の販売を施設内で行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医を選択していただき、ご本人、ご家族様のご希望に沿った受診を支援するとともに、受診時には必要な情報提供を行い、受診後には、治療内容等の情報もいただいている。	かかりつけ医の選択は自由であり、利用前の主治医を継続することもできるが、入居後、多くの利用者は建物内のクリニックへ変更している。外部のかかりつけ医や他科等の専門医への受診に際しても日頃の様子ができるよう情報提供を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様が入院した際、病院関係者に情報を提供し利用者様が安心して治療に専念できるようにしている。また入院中も早期退院ができる様ご家族様や病院関係者と連携を図るように努めている。特に連携病院の医療ソーシャルワーカーとの関係は良好で良好で情報交換がスムーズに出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院した際、病院関係者に情報を提供し、利用者様が安心して治療に専念できるようにしている。また入院中も早期退院ができるよご家族や病院関係者と連携を図るように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	法人内で年1回、看取り研修を行っている。契約時にご家族様に看取りに関する施設の指針を示し終末期ケアについての方針の共有を図っている。状態変化があった場合はサービス担当者会議を行いご家族様のご希望やご意向をお聞きし介護計画を変更して終末期ケアに取り組んでいる。ご逝去された後には看取りカンファレンスを行い自分たちのケアを振り返っている。	利用者・家族に入居時の際に終末期ケアのあり方や看取りの方針について説明するとともに、重篤化した場合には、担当者会議を開催し、家族の意向に沿うよう支援している。看取り期においては、家族も居室で泊まれるよう配慮している。看取りケアの研修を実施するとともに、看取り後のカンファレンスにおいて振り返りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に応急処置や緊急時対応などの医療研修を受け実践できるようにしている。また急変時や事故発生時の対応マニュアルをユニットごとに置き、全職員が把握できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常災害委員会では防災用品の使用方法や避難誘導等について職員に周知徹底を図っている。年3回、消火、防災訓練など総合訓練を実施し消防署の指導によるAEDの操作訓練など災害対策教育に取り組んでいる。自治会長様にも訓練に参加していただき、協力体制を築いている。	アンケートで、災害時対応についての意見を収集し、AEDや発電機の操作手順の確認、懐中電灯その他備品の購入や必要備品の収納場所等についての確認につなげている。ハザードマップにおける水害を想定した訓練実施や備蓄保管場所の工夫をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の人格を尊重しその方の誇りやプライバシーを損ねない対応を意識して居室入り口には暖簾を掛けたり、トイレ誘導時の声掛け方法など配慮している。また、声掛け方法が不適切にならないよう委員会を通して職員のスキルアップを図っている。	利用者一人ひとりの人格を十分尊重し、トイレ誘導時の声かけや、排泄状況についての言葉づかいに留意するとともに、職員同士の会話についても不適切な発言がないか等も注意し合い、ケアの質の向上を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中でご本人様の想いや希望を聞き出し、「気づき」として記録に残し、職員同士が情報を共有しながら自己決定ができるような問いかけするようにご本人が努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のその日の状態や状況を考慮し、その方のペースに合わせ、トイレ介助や散歩、学習療法、レクリエーションなど希望に沿い支援するように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に着たい服や季節に合った服と一緒に選んだり、鏡の前で髪を整えたり、整容に注意を払いながらその方らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している。また、入浴後はご自分で髪を乾かせる方には、鏡前にドライヤー置くなど準備を整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食後、利用者様に茶碗拭きやお盆拭きなど一緒にやっている。食器類は各自、自宅から持参された馴染みのある物を使用されている。食事委員会で毎月、季節に合わせた行事食や選択食などを企画し食事を楽しむことができるよう支援している。	栄養士が食事中心に見て回り、嗜好調査等を行っている。月1回程、季節感を演出した流しそうめんや鍋等の行事食や食べたい物をリクエストしてもらい、出前を取る等している。食後は食器拭き等、利用者の状況に合わせて役割を持ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの身体状況、好み、摂取量、形態把握をし、主治医からの指示を受け療養食や必要栄養量の確保ができる食事を提供している。これまでの食習慣ができる限り継続できるよう家族の協力を促したり主治医と相談を行い希望に沿うようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけや介助を行い、口腔内の清潔保持ができるようにケアしている。ご本人様、ご家族様の希望時、訪問歯科を利用していただいたり、歯科衛生士の指導を受けながら口腔ケアをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ケア記録を活用しながら、各利用者様の排泄間隔を把握し、声掛け等、留意しながらお一人お一人に合わせた排泄支援を行っている。できる限りトイレでの排泄を促し、利用者様の状態に応じ、できる力を発揮できる環境を整え支援している。	トイレ誘導については、排泄パターンを把握し、さりげない声かけを行い、できない所のみを介助する等、また、自尊心を損なわないよう注意しつつ、排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ご家族様と相談しながら、好みの飲み物や便通の良くなる飲食物を持参していただいたり便秘予防に腹部マッサージを行ったり、起床時には白湯を提供するなどお一人お一人に合わせた予防に務めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	浴室の扉に掲示してある羞恥心の配慮やせかささい等の「入浴のルール」を意識してお一人お一人に合わせた支援をしている。入浴時間や同姓介助等、本人様の希望に合わせている。また、個浴では対応が困難になっても、機械浴を利用して安全に入浴していただくことのできる協力的体制がある。	週2回の入浴日があり、季節のしょうぶ湯やゆず湯等を取り入れ、利用者が季節を感じられるよう工夫している。入浴を拒否される方には、声かけ方法や他の職員に代える等の工夫により、安心して入浴してもらえるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調や生活リズムに応じ、午睡を促したり、日中でも居室で安心して休んでいただけるようにしている。夜間も今までの暮らしの生活習慣を大切に消灯時間を設けず、居室の照明も希望に沿うようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬情報書を個々にファイルし、薬の内容、使用方法、用量の把握を行い、理解している。個々の内服マニュアルを活用し確実に内服出来ている。日々の関わりの中、表情や言動など注意しながら異常の早期発見に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	法人独自の情報シートや面会時やサービス担当者会議時等のご家族様との会話の中やご本人様との日々の関わりの中で出来る事、出来ない事を把握し、その方の力を活かしていけるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の誕生日の折などに、希望を伺い買い物や外食、自宅に帰りたいなどの計画を立てていたがコロナ対応の為、中止している。	現在のコロナ禍の影響で、外出を制限せざるを得ない状況にあり、外食や買い物は控えているが、車中ドライブで近くの公園へ出かけた。敷地内を散歩する等、外気に触れられる機会を設けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様やご家族様の想いや希望に合わせて対応させていただいてますが、ご自分で小銭を持ち施設内での商店の販売や自販機でジュースを買ったり、お一人お一人の能力に応じてお支払していただくなどの支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて施設の電話を使用させていただいている。携帯電話を所有している方は自由に連絡を取られている。現在オンライン面会を利用している。手紙を送るなど職員が取り次ぎ関係が継続できるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は窓が大きく景色が一望でき、明るく季節が感じられるようになっている。花壇や菜園のあるルーフデッキには自由に出入りできるようになっている。利用者様が書いた習字など掲示している。計算問題や色塗り等を常備し利用者様が好きな物を自由に選び、取り組めるようになっている。	窓が大きく、太陽の光が十分に取り入れる造りとなっている。リビングでは時間を決め換気を行うとともに、温度、湿度調整を行っている。ユニット間に隣接する廊下等の共有スペースには、入居者制作の習字や塗り絵等の作品が飾られている。椅子やテーブルも配置され、くつろげる空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有の空間には、ソファ、テーブル等を置き思い思いの場所で過ごしていただいている。利用者様の状況に応じて配置を変更し、好きな場所で過ごしていただいている。ユニット以外にも、所々にソファやテーブルが設置されており、ゆつくりと新聞を読まれたりしている。併設の事業所にも自由に出入りして楽しむ事が出来る。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の居室は、お好みの物や今まで使用されていた家具も持ち込んでいただいている。居室内には家族様の写真や思い出の写真、自分で作られた作品を飾り落ち着いた空間づくりに配慮されている。	自宅での生活スタイルの継続性を重視しており、自宅で使用していた家具・調度品類等が持ち込まれている。家具の上や壁には、作品や写真が飾られている。掃除は専門の清掃員が行い、毎年定期的にワックスがけを行う等して、清潔に居室環境が保たれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下を広く、バリアフリーとなっており、手すりも設置されている。安全に歩行や車イスでの自操ができるように配慮されている。また、床や扉などは併設の事業所と色分けされ、利用者が混乱しないよう配慮されている。トイレも広く、車イスでも不自由なく利用できるよう手すりもあり、トイレの位置も分かりやすいように目印を付けている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192600134		
法人名	社会福祉法人 浩仁会		
事業所名	グループホームIB(アイビー) けやき2番地		
所在地	岐阜県揖斐郡揖斐川町長良657番地1		
自己評価作成日	令和4年9月26日	評価結果市町村受理日	令和5年2月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JgvoNoCd=2192600134-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 岐阜後見センター		
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7		
訪問調査日	令和4年10月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

揖斐川の支流、桂川沿いに建つ当施設は、山を近くに望み、田畑も広がり、春は桂川沿いの花もも、夏には源氏螢が飛び交い、四季折々の景色が楽しめます。リビングの大きな窓が明るい空間を作り出し、自由に入出入りできるルーフデッキもあり、自然を身近に感じながら過ごすことができます。ルーフデッキには菜園や花壇があり、入居者様と共に花を育てたり野菜作りをし、収穫した野菜を調理し、植物や食物から四季を感じることもできます。また、明るく風通しの良いリビングで、ゆったりティータイムを楽しんだり、入居者様同士ふれあったり、お一人お一人の想いを大切に、安心して自由な生活を支援させていただきます。職員は、目標設定や自己評価を行い、スキルアップを目指し、外部の方による研修や施設内外の研修会に参加し、入居者様がより安心し、満足していただけるよう支援させていただいております。また、クリニックが施設内に併設されている為、体調管理ができ、急な状態変化にも対応することができます。終末期ケアにを望まれる場合も入居者様、ご家族様の意向に沿った看取りケアを行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--	--	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を基に毎年、各部署・ユニットが目標を決め、目標に対する行動計画をたて毎月評価を行っている。職員は法人理念が書かれた小冊子を持ち意識付けをし、定期的に面談にて振り返りを行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染拡大防止の為、現在地域ボランティアの受け入れは中止している。コロナ減少傾向であれば、感染予防に留意しながら地域の公園などに出かけている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	揖斐川町の介護相談事業の委託を受け介護予防教室と認知症カフェを開催している。コロナ対応にて認知症カフェは中止している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	併設の地域密着型施設と合同で2ヶ月に一回開催し施設内の行事や事故報告、委員会活動を紹介している。現在コロナ対応でご家族様は参加中止としているが町の職員に参加して頂いて報告している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に区長、町の高齢福祉課の職員の方に参加して頂きサービス状況の報告を行っている。地域ケア会議に出席し情報交換を行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会にて困難事例や不適切ケアについて多職種で検討し身体拘束しないケアに取り組んでいる。やむを得ず行う必要があると考えられる場合でも安易に判断せず身体拘束廃止(適正化)委員に於いて十分に検討を行い具体的な対応を検討している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内での研修により高齢者虐待防止関連法の理解を深めている。対応困難の方のケア方法など不安だと思っている事はないか委員会やユニット会議で話し合いをし、職員のストレスケアにも注意をしながら防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修を行い、全職員が学ぶ機会を持っている。成年後見人制度を利用している利用者様の司法書士との関わりを通じて身近に学ぶ事も出来て支援につなげている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項の説明を不足にならないように十分に説明し、ご本人様やご家族様からの質問に分かりやすい言葉で心掛けお答えし理解、納得していただき、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	サービス担当者会議やご家族様来訪時に意見、要望を伺い、サービスに反映させている。頂いた意見は貴重なご意見メモを作成し運営に反映できるよう努め、ユニットでも議題としている。ご意見箱も設置している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員から聞き取りを行った意見を委員会で出し合い改善に向け、取り組みを行っている。日常的に困っている事があれば都度、面談を行っている。また、人事考課により意見・要望を記入してもらい思いを汲み取り幹部会議で検討し、事業所運営に活かしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年、自己目標管理シートに自分自身を振り返り、自己評価をしている。これを基に年3回面談を行い、目標達成度を把握するとともに感謝しているところを伝える。要望の聞き取りも行い、働きやすい環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修を年間計画を立て実施し、全職員が参加できるように行い参加できない職員にはフィードバック学ぶ機会を設けている。新人職員には内部研修を行いアドバイスしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人・関連法人にあるグループホームと意見交換や検討会にて連携を取りながらサービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の思いや要望を日々の生活の中から引き出し必要なサービスを検討している。またサービス担当者会議で家族様より情報収集をし安心して生活できるような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前調査や契約時にご家族様に聞き取りを行いながら、分かりやすく説明を行い困っていることや要望をの把握に努めご家族様などに信頼していただけるように関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前調査などから本人様やご家族様に聞き取りなどを行い状況・状態を把握することによりかかりつけ医への通院・理学療法士によるリハビリなど、より良いサービス利用ができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物を干す、茶碗やお盆を拭く、掃除をするなど一人一人の出来る力を大切に、ホームでの生活の役割を任せていただいていることで、共に暮らす者同士の馴染みのある関係性を築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ対応により面会制限があり本人とご家族様とゆっくりと会う事が出来ない為、日々のご様子など状態報告を密に行っている。行事や日々の暮らしのご様子など、ラインで写真やメッセージを送ったりしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日々様子やご本人の想いを洗濯物の受け渡しの時に報告したり、タブレットを利用して写真やメッセージを送ることで家族との関係性を保つと共に、ご家族様もご本人に関わる機会をもってもらっている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ユニット間は自由に行き来でき、併設の事業所の利用者様もおみえになり地域も話しをされたりと馴染みの関係ができています。施設内にある『ラウンジ』では新聞をゆっくり読む場があり関わり合えるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されても必要に応じて情報提供させていただいたり、ご家族様の相談に対応している。また併設の事業所に移られたご家族様にお会いした時も声かけをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事前調査時、利用者様やご家族様からの希望や意向、今までの暮らし方について伺い情報を共有した上で日常生活での会話や表情から想いを汲み取りその都度ご家族様と共に検討を行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	法人独自の情報シートを活用しご本人様やご家族様から生活歴など聞いたり日々コミュニケーションを取りながら情報の把握、共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の気づきを毎朝の申し送りや申し送りノート、ケア記録(iPad)あなたのこと知りたいシートなどに記入し情報共有することで全職員が現状の把握をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月モニタリングを実施している。又、ユニット会議に於いてもケアプランが現状に即しているか検討をするので職員から多くの意見やアイデアが提案される。又、本人、ご家族様や管理栄養士など参加したサービス担当者会議を行うことにより、本人にとってより良い介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿い日々の生活の様子や気づきを記録することやユニット会議で情報共有しながら、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々に応じてご家族様と話し合い柔軟に対応できるようサービス内容を変更している。併設のクリニックと連携を取り、安心していただけるようなサービスの提供や併設の事業所の利用者との交流、また自宅に帰るなどの支援も行っているが現在コロナ対応で帰宅などは控えていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ対応にて外出や地域との交流が出来ないが、地域の商店よりパンやお菓子等の販売を施設内で行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医を選択していただき、ご本人、ご家族様のご希望に沿った受診を支援するとともに、受診時には必要な情報提供を行い、受診後には、治療内容等の情報もいただいている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様が入院した際、病院関係者に情報を提供し利用者様が安心して治療に専念できるようにしている。また入院中も早期退院ができる様ご家族様や病院関係者と連携を図るように努めている。特に連携病院の医療ソーシャルワーカーとの関係は良好で良好で情報交換がスムーズに出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院した際、病院関係者に情報を提供し、利用者様が安心して治療に専念できるようにしている。また入院中も早期退院ができるよご家族や病院関係者と連携を図るように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	法人内で年1回、看取り研修を行っている。契約時にご家族様に看取りに関する施設の指針を示し終末期ケアについての方針の共有を図っている。状態変化があった場合はサービス担当者会議を行いご家族様のご希望やご意向をお聞きし介護計画を変更して終末期ケアに取り組んでいる。ご逝去された後には看取りカンファレンスを行い自分たちのケアを振り返っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に応急処置や緊急時対応などの医療研修を受け実践できるようにしている。また急変時や事故発生時の対応マニュアルをユニットごとに置き、全職員が把握できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常災害委員会では防災用品の使用方法や避難誘導等について職員に周知徹底を図っている。年3回、消火、防災訓練など総合訓練を実施し消防署の指導によるAEDの操作訓練など災害対策教育に取り組んでいる。自治会長様にも訓練に参加していただき、協力体制を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の人格を尊重しその方の誇りやプライバシーを損ねない対応を意識して居室入り口には暖簾を掛けたり、トイレ誘導時の声掛け方法など配慮している。また、声掛け方法が不適切にならないよう委員会を通して職員のスキルアップを図っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中でご本人様の想いや希望を聞き出し、「気づき」として記録に残し、職員同士が情報を共有しながら自己決定ができるような問いかけするようにご本人が努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のその日の状態や状況を考慮し、その方のペースに合わせ、トイレ介助や散歩、学習療法、レクリエーションなど希望に沿い支援するように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に着たい服や季節に合った服と一緒に選んだり、鏡の前で髪を整えたり、整容に注意を払いながらその方らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している。また、入浴後はご自分で髪を乾かせる方には、鏡前にドライヤー置くなど準備を整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食後、利用者様に茶碗拭きやお盆拭きなど一緒に行っている。食器類は各自、自宅から持参された馴染みのある物を使用されている。食事委員会で毎月、季節に合わせた行事食や選択食などを企画し食事を楽しむことができるよう支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの身体状況、好み、摂取量、形態把握をし 主治医からの指示を受け療養食や必要栄養量の確保ができる食事を提供している。これまでの食習慣ができる限り継続できるよう家族の協力を促したり主治医と相談を行い希望に沿うようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけや介助を行い、口腔内の清潔保持ができるようにケアしている。ご本人様、ご家族様の希望時、訪問歯科を利用していただいたり、歯科衛生士の指導を受けながら口腔ケアをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ケア記録を活用しながら、各利用者様の排泄間隔を把握し、声掛け等、留意しながらお一人お一人に合わせた排泄支援を行っている。できる限りトイレでの排泄を促し、利用者様の状態に応じ、できる力を発揮できる環境を整え支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ご家族様と相談しながら、好みの飲み物や便通の良くなる飲食物を持参していただいたり便秘予防に腹部マッサージを行ったり、起床時には白湯を提供するなどお一人お一人に合わせた予防に務めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	浴室の扉に掲示してある羞恥心の配慮やせかさない等の「入浴のルール」を意識してお一人お一人に合わせた支援をしている。入浴時間や同姓介助等、本人様の希望に合わせている。また、個浴では対応が困難になっても、機械浴を利用して安全に入浴していただくことができる協力体制がある。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調や生活リズムに応じ、午睡を促したり、日中でも居室で安心して休んでいただけるようにしている。夜間も今までの暮らしの生活習慣を大切にして消灯時間を設けず、居室の照明も希望に沿うようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬情報書を個々にファイルし、薬の内容、使用方法、用量の把握を行い、理解している。個々の内服マニュアルを活用し確実に内服出来ている。日々の関わりの中、表情や言動など注意しながら異常の早期発見に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	法人独自の情報シートや面会時やサービス担当者会議時等のご家族様との会話の中やご本人様との日々の関わりの中で出来る事、出来ない事を把握し、その方の力を活かしていけるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	利用者様の誕生日の折などに、希望を伺い買い物や外食、自宅に帰りたいなどの計画を立てていたがコロナ対応の為、中止している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様やご家族様の想いや希望に合わせて対応させていただいてますが、ご自分で小銭を持ち施設内での商店の販売や自販機でジュースを買ったり、お一人お一人の能力に応じてお支払していただくなどの支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて施設の電話を使用させていただいている。携帯電話を所有している方は自由に連絡を取られている。現在オンライン面会を利用している。手紙を送るなど職員が取り次ぎ関係が継続できるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は窓が大きく景色が一望でき、明るく季節が感じられるようになっている。花壇や菜園のあるルーフデッキには自由に出入りできるようになっている。利用者様が書いた習字など掲示している。計算問題や色塗り等を常備し利用者様が好きな物を自由に選び、取り組めるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有の空間には、ソファ、テーブル等を置き思い思いの場所で過ごしていただいている。利用者様の状況に応じて配置を変更し、好きな場所で過ごしていただいている。ユニット以外にも、所々にソファやテーブルが設置されており、ゆっくりと新聞を読まれたりしている。併設の事業所にも自由に出掛けて楽しむ事が出来る。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の居室は、お好みの物や今まで使用されていた家具も持ち込んでいただいている。居室内には家族様の写真や思い出の写真、自分で作られた作品を飾り落ち着いた空間づくりに配慮されている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下を広く、バリアフリーとなっており、手すりも設置されている。安全に歩行や車イスでの自操ができるように配慮されている。また、床や扉などは併設の事業所と色分けされ、利用者様が混乱しないよう配慮されている。トイレも広く、車イスでも不自由なく利用できるよう手すりもあり、トイレの位置も分かりやすいように目印を付けたりしている。		